

港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

第 20 号

TEL 045-547-2324 FAX045-531-9561 E-mail info@kouhoku-saibora.net

2014 年 5 月

HP <http://www.kouhoku-saibora.net>

入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるにお力を貸して下さい。

総会に向けて

「災害ボランティア」と「防災ボランティア」

何が違うのだろう、何をやるのだろう

災害の知恵の共有

防災活動や災害救援活動を行っているボランティア団体の名称に「〇〇防災ボランティア」と名乗るグループ、「〇〇災害ボランティア」と名乗るグループの2種類があります。その名称の違いは何を表すのでしょうか。それぞれの活動が災害時のみでないのは、多くが阪神淡路大震災を経て、災害救援活動の現場経験から地域防災の取り組みの重要性に気付いてその活動を始めたことから明らかです。その後起きたナホトカ号重油流失事故や中越地震などのそれぞれの経験を普遍化することや、共有して知恵を高めることの意味の重要性に気付いた団体が全国的組織を作ってきました。震災がつながる全国ネットワークがそれです。国もその動きを応援する意味も込めて「災害ボランティア活動検討会」を内閣府に設置しています。それらの中では全社協や中央共同募金会のメンバーも含めて論議を重ねて、災害時の救援体制のあり方やボランティアセンターの運営方法についても話し合ってきました。その中から出て来た一つが「受援力」の考えです。

住民自治を支える災害ボラセンに

受援力とは、災害時に全国から寄せられる支援をうまく受けるための力です。その力を付けることがボランティアにも住民にも求め

られています。被災者は単に助けをもらうだけの存在では無い筈です。被災したあとどれだけ住民が被災生活を自主的に切り盛りするかは、その後の生活再建に関わる重要な問題です。災害ボランティアセンターも単に物資を配ったり、ボランティアを派遣するだけではなく、生活再建を視野に入れて活動することが大切であるとの認識が共有されて来ました。

地域防災訓練の目的は減災

住民が一方向的に助けをもらうだけの存在にならないための工夫が地域防災訓練には求められます。私の地区では「命を守ろう」とテーマを設けて訓練しました。守られた命をどのような質で支えるかが避難生活の課題であり、それが災害ボラセンと避難所運営委員会の役目です。ですから災害時の被害軽減とその後の適切な運営は両者の共通課題です。一部の住民だけが頑張るのではなく、被災生活の問題点を的確に把握し、それを解決する力を住民みんなが蓄えることです。そのために一番重要なのは被害を出来るだけ少なくすること＝減災です。この課題を共通のものとして地域活動することが双方に求められます。その上で災害時のボランティアセンターの運営能力を高めること、この二点が私たち災害ボランティア活動に求められるのだと思います。
(編集部 宇田川)

平成 26 年度第 1 回定例会報告

日時：平成 26 年 4 月 16 日（水）10 時～
場所：港北区福祉保健活動拠点多目的研修室
出席者：井上会長（港北区ボラ連）、白井副会長（個人）富士塚ボランティアグループ、社会福祉法人陽だまりの会、手話サークル梅の会、手話サークルあじさいの会、港北区ボラ連、港北国際交流ラウンジ、一般社団法人ペガサス、仲手原マザークラブ、個人 8 名、丸山（区役所）、池田、小野、山本、松本（区社協）、司会＝白井副会長。記録＝和田 合計 24 名（敬称略）

各タスク報告

●シミュレーションタスク

* 1 2 月シミュレーション実施・反省・ハンドブック改訂の作業・注意事項を纏めたものを記事にした。

* 本部機能・情報機能・を充実したものを考えている。区役所・社協・地域連携を考えていきたい。

●イベントタスク

* 防災拠点に参加して予備訓練等をしたい。
* 2 月のセミナーは映画上映&現場に立ち会った方のトークショー

* D ブロック会議に参加希望

●PR タスク

* 加入申し込み書を作成
* 関心の高い PR をしたい（ケアプラ・地区センター等にて）
* 役所と協定したい（役所・社協・災ボラ会長）
* パネルを 1 枚増やしたい。

●会計

* 予算の確保について
区役所・社協補助金・会費・参加費等で予算をたてたい

総会、事業計画について

* 日程について

資料をもとに検討

* 定例会の案内送付方法

メールでのお知らせか印刷物の郵送かについてと賛助会員については役員会で案を作成し、総会ではかる。

*平成 26 年度登録・変更の手続きを行う

●その他

新役員候補 会計⇒小澤さん・書記⇒鈴木さん

港北区ボランティアの集い

映画「遺体 明日への十日間」

6 月 12 日（木）港北公会堂にて

命が尽きようとするときに医療者にどのような対応をされたかで、その後の死の受け止め方が変わって来ます。

災害では一時に数多くの死が出現したときにその死をゆっくりと受容する時間も持てないことも起きるでしょう。ああすれば助けられたのに、と後悔の中で暮らし続ける人々もいます。また遺体を扱う関係者も平常心を保つことが難しくなることが起きます。

そんな災害死を実話を元に映画化した作品が港北区ボランティアの集いの中で上映されます。

日 時：2014 年 6 月 12 日（木）

開場 12 時半 開会 1 時

会 場：港北公会堂

主 催：港北区ボランティア連絡会

入場料：300 円（申し込み不要）

主演の西田敏郎のほか、緒形直人、勝地涼、國村隼、佐藤浩市、柳葉敏郎らが出演します。



首都圏のM8クラス大地震は30年以内に5%!

地震発生確立上昇はなぜ?

政府の地震調査委員会は4月、首都圏に甚大な被害をもたらす地震の長期予測結果を公表しました。相模湾から房総半島沖に延びる相模トラフ沿いで、マグニチュード(M)8クラスの地震が30年以内に発生する確率は最大5%と2004年の予測の2%から上昇しました。

その理由は、最近の地質調査の結果などから従来想定していなかった地震の発生も考慮したためです。

地震の予測は地質調査などで過去に起きた地震の痕跡から発生年代を調べ地震の周期を計算することで行います。その結果2004年では「関東大震災」型地震が30年以内に起こるのは最大2%、「元禄関東地震」型地震がほぼ0%と予測しました。しかし今回、房総半島南東部の地質調査で「関東大震災」型とも「元禄関東地震」型とも異なる地震の痕跡を発見しました。そこで個別の発生確率を計算する手法をやめ、M8クラスの地震を一括して取り扱うことにしました。

その結果M8クラスの地震が30年以内に発生する確率は2%から5%に上昇しました。

またM7クラスの首都直下地震が30年以内に発生する確率は2004年の予測と同じく70%程度と発表しました。国の中央防災会議が昨年12月に公表した被害想定では、M8クラスの地震が起これば、死者約7万人、経済被害は160兆円と、甚大な被害が見込まれます。港北区内でも、262人の死者と9029棟の全壊家屋が見込まれます。

5%の確率とは?

例えば30年以内に空き巣にあう確率は3.4%、火災にあう確率は1.9%だそうです。30年間に100軒の家のうち3軒で空き巣被害があり、2軒で火災にあうということです。5%の確率は低いように感じますが、あくまで確率であって明日地震が発生してもおかしくありません。

必ず起こる地震に対してしっかりとした準備を整えましょう。

●地震調査委員会が発表した地震の発生確率 M8クラスの地震

10年以内	1%
30年以内	5%
50年以内	10%

首都直下地震(M7クラス)

10年以内	30%程度
30年以内	70%程度
50年以内	80%程度

●中央防災会議が発表した地震の被害想定 M8クラスの地震

死者数	7万人
負傷者	24万人
全壊・焼失建物	133万棟
経済被害	160兆円

首都直下地震(M7クラス)

死者数	2万3000人
負傷者	12万3000人
全壊・焼失建物	61万棟
経済被害	95兆円

●横浜市が発表した港北区の地震被害想定 M8クラスの地震

死者数	262人
負傷者	1851人
全壊・焼失建物	9029棟

首都直下地震(M7クラス)

死者数	187人
負傷者	988人
全壊・焼失建物	3323棟



『遺体-震災、津波の果てに』

石井光太 新潮社

「遺体」というショッキングなタイトルに、読むのを躊躇する人もいるかもしれない。私自身がそうであった。「遺体」と対面した経験を持つ人は

いるが、それは「葬儀」の場に限ってということが多いと思う。果たして読み続けることができるのか・・・と不安にもなったが、死者への尊厳の気持ちを持って実に真摯に「遺体」に向き合った人々の記録を、一気に読み上げてしまった。

あの日、3月11日。釜石市の中心部「マチ」は大津波で壊滅的な被害を受け、安置所には多くの遺体が運ばれた。我が子を亡くし悲嘆にくれる母親、誰もが涙するあまりにも幼すぎる亡骸、もう二度と会話をすることができない冷たくなった友人・・・圧倒的な悲しみ、やり場のない気持ちを誰もが抱え、混乱する現場の中で、遺体に向き合った人々（民生委員、消防団員、行政、医師たち）が実に丁寧に描かれている。自分自身も被災者であるだけでなく、時には怒りや悲しみをぶつけられる存在にもなっていたが、彼らは、犠牲者を家族の元へ戻してあげたいという一心で、その思いだけを持って「遺体」に向き合う様には、ただただ頭が下がる思いだ。

被災地から安置所へ遺体を運びつづけた担当者は、「どうしてこの仕事を続けられるのか」という問いに対して、「もし自分が犠牲者だったら家族のもとに帰りたいと思うはず。犠牲者だって死にたくて死んだんじゃない。（中略）だからこそ彼らが家族のもとに帰る手伝いをしてあげたい。少なくとも、僕はそのことにやりがいを感じてる」と答える。これこそがあの時、「遺体」に関わっていたすべての人々の凝縮された「思い」なのではないだろうか。

この本は、映画化もされたが、上映時には、正直言って、観ることを躊躇してしまった。6月12日（木）には港北区で上映されるとのこと。観

遺体



ることできっとまた涙してしまうかもしれない。それでも、この原作に登場した実在の人物を思い浮かべながら観ることで、あの時真摯な思いを持って「遺体」に関わっていた人たちの気持ちに少しでも寄り添えるのではないかと思うし、何よりも、観ることが、東日本大震災で亡くなられた方を、被災地のことを忘れない、風化させないことにつながると信じている。（山口）

持っていて良かった便利グッズ

1 水のいないシャンプー

水が十分に手に入らない災害時、浴場の再開が、自衛隊のお風呂の到着がどれだけ喜ばれたことか。しかしそれが何時になるか分かりません。特に暑い時期の乳幼児の頭皮の清潔維持は大切です。そんなときに役立つのがこれです。過去の災害時にも欲しいものベストテンに入っています。病気で洗髪できないときも便利です。通販やドラッグストアなどで購入できます。

2 水のいない歯磨きシート

災害時の口腔ケアの重要性は今までは一部でしか議論されて来ませんでした。実は重要な問題なのです。特に高齢者にとって避難所での肺炎死に繋がる問題です。高齢者以外でも口の中をさっぱりさせたいのは誰でも同じ。そんな時役に立つシートが発売されています。ウェットティッシュのように取り出して歯や歯茎、舌を拭えます。なお、液体歯磨きでもごく少量の水で歯を磨くことが出来ます。

編集後記

- ☆ 20号になりました。ニュースを毎月出すのは大変な部分がありますが、多くの役立つ情報をお届けしたいと編集部一同考えています。ご意見をお待ちしています。（宇田川）
- ☆ 低線量被曝と鼻血の因果関係は医学的に根拠ありません。皆さん、風評に惑わされずに東北を支援しましょう。（山本）
- ☆ 南三陸の防災庁舎の解体が決まりましたね。賛否はあるものの震災遺構がなくなっていくことで、風化してしまわないか心配です。（野田）
- ☆ 今回からスタートした「持っていてよかった便利グッズ」記事。日常生活でも使えるものなので、そろえやすいですね！皆さんが普段使われている中で便利なグッズがあったら、ぜひ災ボラまで教えて下さい。（山口）